

社会福祉法人 鶴寿会  
基本理念  
『活力ある地域に根ざした高齢者福祉の創造』  
～共創の時代～

高齢者の方々が『いつでも、その方らしい豊かな人生を過ごせるよう』御家族に『心より安心して頂けるように』御利用者の身体面と精神面の親身なケアを通じ日々の安らぎと生きがいを支えるサービスの提供に努めていきます。

## 生活相談通信

～Tie & Bond～

12号通信  
(平成23年10月号)

# 絆



仲秋の候、いかがお過ごしでしょうか。気が付くと朝・晩はすっかり秋の訪れを感じさせる風を感じます。今夏は様々な出来事がありました。1日1日を暮していく事への重みと大切さを改めて考えさせられた『夏』でした。季節も秋へ移り変わるところです。〇〇の秋と称される事がありますが、〇〇の秋の〇〇にはそれぞれのテーマがあると思います。皆さまの〇〇が輝かしいものになる秋になれば幸いです。

## 自衛消防訓練審査会の御報告

平成23年度(第24回)自衛消防訓練審査会が平成23年9月12日(月)田無自動車教習所で行われ、クレインから男子隊・女子隊の2隊・計6名の職員が審査会に臨みました。

市内の医療法人や社会福祉法人及び、民間会社に従事する職員が消防に対する技能を競う大会です。

1隊3名構成で行います。男子は21隊・女子は9隊。計30隊による男女別の審査会でした。

結果は女子隊の準優勝!! 男子は惜しくも敢闘賞。という結果でした。

当日の審査会までの道のりは険しく、7月下旬より施設園庭にて各自のスケジュールを合わせて練習を行ってきました。

最初は全く内容も動きも解らないまま始まりましたが、練習時間を重ね徐々に男子・女子隊のチームワークも良くなり当日は自信を持って臨む事が出来ました。

目的だった男女ダブル優勝にはなりませんでしたが、貴重な経験を得る事ができたと共に、災害に対する意識の持ち方が変わりました。

(男子隊参加職員) 渡辺文祥(生活相談員)・齋藤 勉(特養介護士)・小林 剛(事務職員)

(女子隊参加職員) 渡邊沙弥佳(特養介護士)・井上智子(居宅介護支援専門員)・小淵裕子(通所介護士)

詳細等はクレインホームページに活動写真・審査会写真を掲載していますので、是非ともアクセスしてみてください!!

## 生活相談員研修会

平成23年10月3日(月)クレインにて西東京市内及び隣接市内の特別養護老人ホームに勤務する生活相談員が集合して『生活相談員研修会』を行いました。

生活相談員業務の内容に関して施設間での情報交換や情報共有を図り、御利用者へのサービス満足度の向上や生活相談員として捉える社会ニーズの動向に関して研修を行いました。

着目した点は、地域で生活する高齢者若しくは要介護者に関係する人々への介入です。

独居や御親族等との同居生活であったりと、ライフスタイルは多種多様ですが、社会生活を営む上で当人以外の方の高齢者、要介護者への関心の高さや関わり方において、施設というあるひとつの『社会』が形成されている状況と『在宅』・『地域』といった施設とはある意味、離れた環境との『差』を埋められるのか否かです。

社会福祉法人等に属する生活相談員の指針の1つには社会福祉事業を行う法人理念に沿いながら、社会福祉の創造を行う事も責務の1つとして捉えた時に、施設で生活する御利用者や御家族へのアプローチ等は行えるが、地域社会・在宅で過ごされる方々への介入もする事が必要なのではないかと。介護ニーズとして捉える部分においては在宅介護支援センター等の介護支援専門員がその役割を果たし、社会福祉ニーズとして捉える部分においては生活相談員がその役割を果たす事が本来の姿なのではないかと議論を交わしました。

むしろ、明確な『解答』はないと思います。

地域社会への社会福祉事業を行う為に多種多様なニーズに応えていく事ができる社会の構築を1つ1つ各施設で行いながら、あえて解答を出すのであれば、その基盤をつくり拡大させて行こう。となりました。

施設で生活をされる御利用者・御家族のニーズも多種多様にあり、そのニーズに応えていく事へ、今以上の傾聴が必要と考察しました。そして、地域・在宅で生活する高齢者・要介護者へも視野を広げていく事には、周囲関係者の協力と理解が必要不可欠と研修会を通して感じたところです。

出来る事から1つ1つ。努力と研鑽・見聞をこれからも養って行きたいと考えます。

# 介護のひろば

職業柄、知人や関わりのある方々から、よくこんな質問を受けます。  
『介護って大変？高齢者をかかえる生活ってお金はいくらかかるの？』と・・・  
前者・後者と分かれる質問と捉えて回答しています。

介護を仕事として捉えている私には、介護の大変さが『大変』とは感じにくい部分もあります。仕事ですので当然、仕事としてプロフィショナルでなければならない反面、介護そのものに人と人とのつながりを覚える部分もあり、一期一会ではありませんが、出会うすべての人との必然とも捉えます。人が人と接する時には少なからず自分の思い通りにはいかない部分もあり、妥協という言葉が適するのでしょうか？一番良い所で折り合いをつける事も多いと思います。介護は人と人とのつながりから始まるものと考えます。自分の思い通りにはいかないもので、確かに大変な部分もあります。ですが、きっとどこかに何かの楽しみや嬉しさも見つける事ができるはずですよ。  
『介護に対して大変って思っていると大変です。でも大変じゃないと思えば大変じゃない。』と答えています。多種多様なライフスタイルがあるので、この言葉ですべての方々が納得・理解はできない事もあるのも承知です。だからこそ、人と人とのつながりから、悩みを相談する事や愚痴をこぼす事が苦しみや悲しみから少しでも楽になれる所とも思います。質問を受ける私は、解答はできなくとも、回答とその悩みを傾聴する事ができれば良いのかな。と思っています。

お金の問題は確かに介護を行う上では必須の要件です。いくら？という明確な金額設定は個々のサービス内容によって異なるので言葉を鮮明に伝える事はできませんが、何に重きを置くのか、何故そうするのか？に関しては明確にして、それに対する金銭を割り出す事を薦めています。

介護は生活の一部になりますので、経済面はとても重要な事です。知人等であっても経済面への介入は控えるようにしていますので、そういう際には『介護にかかるお金』に関わる文献を紹介しています。

介護保険制度が平成12年(2000年)に創設されてから今年で11年。平成24年になると12年目を迎えます。当初から、介護保険の中身には在宅介護に重きを置く事が法令の文言からも考察されました。日本古来の文化もあるのでしょうか、家を守るのは女性というスタイルが少なからずあると思います。それが良い悪いといった事への観点ではなく、そういう生活習慣があり、女性の社会進出に対しては一步引く所もありました。介護保険制度当初、介護をする人は配偶者、子の配偶者、子といったように女性が介護をする現実に対しては女性の社会進出へ手助けできるような工夫を行う事に期待もありました。期待に対する実証はなかなか難しい所もありますが、当時の印象は女性の介護でした。最近では、男性の介護も多くなり始めてきています。『認知症の人と家族の会』の調査で会員・非会員で統計をとった結果、2000年当時には主介護者の18.6%が男性であり、2010年には32.2%が男性となる結果が算出されました。介護を男性が行う事が徐々に増え始めてきている事が考察されます。仮説には、高齢化が進む中で介護を担う家族等が男性になっていく事は高齢化の進み方が著明である事を示すようにも感じられます。施設数が介護ニーズと反比例する中で、在宅生活における家族間の在り方にも今後変化があると思われる。

※内容は一部、東京新聞記事より抜粋※

## 介護保険情報

## クレイン情報

### ◆空調機器及びボイラー更新工事のお知らせ◆

クレインも開設から10年を過ぎました。この度、施設内の空調機器及び、ボイラー更新工事等のメンテナンスを行う事になりました。

10月17日(月)～11月30日(水)までの約1か月半は施設内の空調が使用できなくなります。

御利用者の生活には不自由がないように、予め、今回の対応を行うにあたってのミーティングを開き寒さ対策への対応が円滑に行えるよう準備を致しました。

御来園される御家族におきましても、一部ご迷惑をお掛け致しますが、何卒ご理解とご協力をお願い致します。

### ◆インフルエンザ予防接種のお知らせ◆

インフルエンザ予防接種を今年度も実施して参ります。

予定では11月14日・17日・21日・24日の4日間を御利用者に対するインフルエンザ予防接種対象日として設定致しました。

詳細等、及び、予防接種への同意書を同封いたしておりますので御確認のもと返信願います。

## 編集後記

東日本大震災から7か月が経ちます。

今日では当時懸念された電力不足も大凡の対応に見込みが整い

最悪の想定が現実になる事はどうか回避する事ができました。放射線物質は今後も課題になりますが・・・

10・13は昨年チリで発生した地下生活のニュースから1年が過ぎます。

地下で暮らした人々が地上へ脱出した後、一躍時の人となりましたが

現在は、当時の切迫した環境から仕事にも就けず、夜も眠剤がないと

眠れないといった後遺症があるとの事です。出来事は時間の経過と共に過去の事となりますが

人の記憶や体感には過去の物にはならない爪痕として残る事に救済があればと感じます。